

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0193500147		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム 輪西 1F		
所在地	室蘭市みゆき町1丁目7-9		
自己評価作成日	2023年2月18日	評価結果市町村受理日	2023年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0193500147-00&ServiceCd=320](https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193500147-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和5年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年4月に開設されたグループホームです  
法人は旭川にある医療法人を母体に札幌・旭川・苫小牧等の首都圏に多くの施設を展開しており、重度化。終末期においても対応できる施設となっています

立地条件としてはJR輪西駅から徒歩圏内であり、近隣にはドラッグストア・大型商店・市民会館等もあり、コロナ禍の時代でなければ日々のお買い物にも散歩がてらでお出かけが出来る生活しやすい場所にあります  
今年はコロナも5種に位置付けされるとの事なので、感染には十分注意しながら少しでも外での楽しみを再開できるよう準備をしていきたいと思っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、室蘭市東室蘭西地区の市街地に位置した2階建て2ユニットのグループホームである。JR輪西駅から徒歩圏内、近隣にドラッグストアなどの商店があり、利便性のよい立地である。法人は、医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め、医療系有料老人ホームや訪問看護、訪問介護、通所介護を旭川市を拠点に札幌市や道内及び首都圏にも展開するなど積極的な高齢者介護の支援をしている。当事業所は、母体が医療法人を、24時間の医療支援体制の構築しており、重度化や終末期にも積極に対応している。広くゆったりしたりリビングの窓からは眺望もよく、利用者が暮らしていた街並みを四季を通じて感じられる。地域との関わりも新型コロナウイルス感染症対策の為、制限していたが、これからは以前のようなお祭り参加など地域との関わりを再開していく予定である。今後も認知症高齢者介護の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各委員会やユニット会議の冒頭に書き込みを入れ目に触れることで理念の浸透に努めている また台所の目に付きやすい場所に掲示している	事業所の理念は、事業所内に掲示し、周知するよう努めている。職員は、ユニット会議やカンファレンスで理念を読み上げ職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になって交流は行っていない 町内会の会合も実行されていない	新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流は制限している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の3年間運営推進委員会の開催は行われていない これまでの交流も希薄となっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行事・事故報告等の書面報告に留まっている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症対策の為、書面会議で行っており、議事録は室蘭市へ提出し、報告している。	議事録の送付先は、運営推進会議の参加予定委員や家族であるため、今後は送付先を徹底して周知すること。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会は実施されていないが、室蘭グループホーム連絡会での会議にZOOM等で参加していただき、コロナ感染等色々な面で相談させていただいた	グループホーム連絡会がzoom会議で行っており、情報交換を行っている。空き室状況等の定期報告も行っている。手続等は直接室蘭市役所としている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の新人オリエンテーションでの研修及び安全委員会からの研修・テスト等で身体拘束をしないという正しい知識を習得している	身体拘束適正化委員会は、法人の安全委員会で検討し、各事業所へフィードバックし、ユニット会議等で伝達講習や内部研修をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全委員会が定期的に行う意識調査研修(小テスト)を行っており、不正解者には個別指導を行うことで徹底した防止策に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修はZOOM等で行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は入居時に重要説明事項等4つの部門毎に管理者から入居者家族様に丁寧に説明しているが、後からの疑問は何時でも連絡連絡受付していると説明する		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見・要望・ご不満があれば管理者及び職員等にお話くださいと入居説明時にお伝えしている もしも意見があった時はAM等にも相談し速やかに対応している	ホーム便りを毎月発行して、家族へ運営状況を報告している。1階利用者は、年に1~2回自ら手紙を家族に書いている。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は殆ど来訪時や電話で聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が思ったことが話せるような雰囲気づくりに努め直接意見が聞ける時間を設ける	ユニット会議は月1回行っており、個人面談は、定期的に年2回実施していたが、3月からは毎月全職員の面談を行うことになっている。職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ラダー評価を行い職員それぞれのレベルの把握に取り組んでいる また職員もそれぞれの目標を基にして自覚を持って働けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ダラー評価からくみ取れる不足している項目や指導が必要な部分においては個人指導を行っている 新規入職者に対しては入職後にオリエンテーションか開かれ指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	室蘭市グループホーム連絡会のメンバーとZOOM等で会議を行いコロナクラスター時に経験したことの意見交換を行いお互いサービス向上に努めている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族様から直接不安要因等やご要望をお伺いし、サービス計画表に盛り込み安心していただけるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にはどんなことでも遠慮なく質問してくださるように入居契約時にお伝えしている またご家族様からの連絡時にはその時々の様子をお伝えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの要望等をお伺いした後、状況にあったサービスが受けられるようにスタッフ・ケアマネージャ等と話し合い良いケアが出来るように準備している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において掃除・洗濯・食事前のテーブルの消毒などその方が出来る事を中心にし職員と一緒に行動することで暮らしを共に過ごす関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、ご家族様との外出・面会も禁止されてる状態ですが、ここ最近は短時間2名様限定で15分間の面会も許可となった。家族宛てへの手紙も継続して行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為、外出等は行えてないが電話等は気軽にかけただけのことを事あるごとにお伝えしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、面会等は制限している。理美容は2ヶ月に1回、訪問で依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業を一緒に行うことで交流が生まれている 重度の方においてはスタッフが声掛けし孤立感が無いように心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も街中でお会いした場合は近況をお尋ねしたりしお声を掛けるようにしている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志が伝えられる方には要望や意向を尋ね時には家族様をお願いしている またアセスメントで本人の気持ちを聞き入れサービスに落とし込むようにしている	意思表示できる方が3分の2位なので、要望や意向を確認して対応している。意思表示できない方には日常生活でアセスメントして対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣を受け入れ、慣れ親しんだ家具や普段使いの食器類を持ち込んでいたなどし、お話しする中で情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート・アセスメントに情報を書き落とし現状の把握をスタッフ内で共有できるように務めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて個人から知りえた情報を共有し次の介護計画に活かし実践していく	居室担当者がEシートを作成し、カンファレンスを月1回行いモニタリングで課題を検討して、本人や家族からの意見や要望を含めて、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や申し送りをを行い情報を共有し実践し介護計画の見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本通院等はご家族様に対応してもらっているが状況に応じてスタッフが対応するなど柔軟な対応をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍になる前はボランティアの方に来ていただいたりしていた。地域の保育所の園児たちが来設し、交流できていたが3年ほど行っていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師がいる場合は本人・ご家族様の希望を優先している	利用者ごとの契約になっており、月1回の往診や必要時の往診と職員同行で受診などの支援をしている。週1回の訪問看護があり、24時間体制の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の連携と訪問看護ステーションへの相談を行い利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供したり退院時は情報収集に努め医師・看護師・ケースワーカー等の説明を受けご家族様と共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時には説明を行い、重度化した場合の話し合いの時間を設けている。実際に看取りになった場合は改めてカンファレンスを行い家族・主治医との話し合いを持ち意向の確認を行っている	入居契約時に重度化した場合の説明をして、同意を得ている。重度化した場合は、主治医と家族、事業所が打合せして、看取りの場合は医療機関と再度契約しチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	どのスタッフでも救急時に対応できるようシュミレーションされたものを掲示している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は夜間を想定し避難訓練を2ヶ月毎に行っている。また地震・津波等の災害を想定した訓練も行っている	避難訓練は火災や地震、津波を想定し、2ヶ月毎に行っており、備蓄や備品を整備して災害対策を行っている。	避難先の特定やBCPが作成中なため、それらをまとめてBCPの完成を期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しトイレ誘導・失禁時の行動にも本人が罪悪感を持たないような声掛けを行い他者に気づかれないような配慮するように支援している	人格の尊重とプライバシーについては、接遇の研修やスピーチロックの研修など行って、声掛けなどに配慮して指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	混乱しやすいので個人に合わせた声掛けやわかりやすい言葉を使いゆっくりと話し自分で考える時間を作り焦らせないように支援で自己決定がしやすい環境を整える。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	都度気持ちを汲み取り、その方のペースで過ごせるよう穏やかな気持ちで取り組み支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせて起床時の洗顔後に化粧水が使われたりしている。散髪はグループホームへの訪問理美容で行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態みて出来ること出来ないことを職員が見極め手伝ってもらっている。入居者様がふっと口にした言葉も聞き洩らさず食べたいと話された物を提供することもある。食事は全員で食卓を囲んで食べている	食事は外部委託で、献立と食材が提供され、調理は職員が担当している。利用者は洗い物などを手伝っている。行事食で、あんころ餅や恵方巻をみんなで作ったりしている。ファミレスからハンバーグ弁当をテイクアウトするなど利用者の希望に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は個別のチェック表を使用し状況の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に毎食後に口腔ケアの声掛けを行い上手く出来ない方には介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し声かけ誘導を行っている本人の羞恥心に配慮した声掛けをし、自尊心を傷つけない様に心掛けている	自立の利用者は3分の2位で、その他の利用者は、時間を見て声掛け誘導して排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿排便を個人記録に落としパターンの把握。排便を促すように冷たい牛乳を摂取して貰ったり繊維質の多い食事をとってもらうよう工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個人に合わせた対応で立位に危険を伴う場合等は職員の二人介助で安全に気持ちよく入浴していただいている	浴室は1階2階とも窓があり明るい。入浴は週2回で、時間や曜日を決めて支援しているが、利用者の状況に合わせてここに沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで体操やゲームなどで楽しく過ごしていただいている。また、家庭で過ごされているように清掃・炊事等に参加していただき夜間帯はしっかりと安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局が管理しているが、いつでも確認できるように個人の薬情をひとまとめにしている また服用時は一人一人の名前や朝・昼・夕服用時の確認を行い誤薬につながらない様注意を払っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・片付け・掃除・洗濯などそれぞれ役割を持たれスタッフからの感謝の言葉に達成感を感じられ、自分の責任と感じ笑顔で応じてくださっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為外出は控えてもらっている。ご家族との外出も控えてもらっている状態なのでストレスはたまっていると思う 今年は状況に合わせて無理ない程度で外へ出向くことも考えてみたい	新型コロナウイルス感染症対策の為、外出は殆ど制限しているが、散歩や外気浴などドライブを含めて、少しずつ状況を見て支援していく予定である。	状況を見ながら、コロナ終息後は、家族の希望を聞き、家族と一緒に外出計画などを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行もあり、お金を使って何か買い物へ行きたいと考えられる方が少なくなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に手紙・電話のやり取りは出来るようになってきている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとテレビが見られるようにソファ等を置きくつろげる空間を演出している	共用空間のリビングと食堂は、広くゆったりしており、採光や風通しもよく、季節を感じる飾りつけや行事の写真など楽しい思い出の掲示がある。温度や湿度も管理しており、リビングには大きな窓があり、見晴らしがよく、利用者はゆったりと寛いで過ごしている、	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間は広く作られていない為一人で過ごせるような場所の工夫は出来ていないが、皆さん一人の居室より皆さんで過ごされるホールで過ごされていることが多い		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用されているタンス・椅子・毎日使われていたお茶わんやお箸を持ってきてもらっている。仏壇を持参されている方もいる 自室へ戻りご自分の好きなテレビ番組を見ている方もおられる	居室には、収納ロッカーとベッドが設置されており、温度や湿度も管理している。利用者は使い慣れた家具や馴染みのものを持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人情報の漏洩禁止の時代ではあるが自分のお部屋が分かるように表札を付けているトイレ・浴室には目印となるような表示をして分かりやすい工夫をしている		